

第2次長久手市子ども読書活動推進計画

長久手市

はじめに

読書は、子どもが人生をよりよく生きるうえで欠かすことができないものです。幼い子どもは絵本の読み聞かせで楽しい時間を得るだけでなく、自身へ注がれる愛情を感じることで、豊かな人間性を養うことでしょう。

読書の楽しさを知った子どもは、成長する段階で、たくさんの本と巡り会うことで、知的好奇心が旺盛になり、豊かな感受性を育みます。

子どもの時に身についた読書習慣は、大人になっても継続され、生きる上での羅針盤となる本との出会いをもたらすはずです。

また、本市は教育大綱の教育理念の一つに、多様性の尊重を掲げています。一人ひとりが大切にされる社会は、自分と違う他者の存在を認めあうことで成り立ちます。多様な人々の存在や価値観を認め合う心を育むうえで、読書は、大きな役割を果たします。

中央図書館のみならず学校や公的機関、各種団体、地域、そして家庭が、この「第2次長久手市子ども読書活動推進計画」を活用しながら、子どもたちを良き読書人へと導いていただくことを願います。

おわりに、本計画の策定にあたり、多大なご尽力を賜った計画策定委員の皆様、アンケートやワークショップ等にご協力いただいた市民、ボランティアの皆様に、お礼申し上げます。

長久手市教育委員会 教育長 川本 忠

目 次

はじめに

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1 計画策定の経緯.....	1
2 計画の目的.....	1
3 計画の位置づけ.....	1
4 計画の対象.....	1
5 計画の期間.....	2
6 計画の目標.....	2
第2章 第1次計画の主な取組・実績・成果.....	3
基本目標1：家庭、地域、学校などにおける子どもの読書活動の推進...	3
基本目標2：中央図書館などの子どもの読書環境の整備・充実.....	7
基本目標3：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発.....	9
第3章 施策体系.....	10
第4章 読書の好きな子どもが増えるための施策.....	12
基本目標Ⅰ 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進.....	12
1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進.....	12
2 中央図書館における子どもの読書活動の推進.....	12
3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進.....	14
4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進.....	14
5 学校における子どもの読書活動の推進.....	15
基本目標Ⅱ 子どもの読書環境の整備・充実.....	17
1 中央図書館のサービスの充実.....	17
2 児童館の読書環境の整備・充実.....	18
3 保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実.....	19
4 学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実.....	19
基本目標Ⅲ 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及.....	21
1 普及活動の充実.....	21

2	各種情報の収集・提供.....	22
3	優れた取組の紹介.....	22
第5章	計画の推進.....	23
1	計画の周知.....	23
2	関係機関との連携・協働.....	23
3	計画の実施状況の点検・評価.....	23

資料編

資料1	用語解説.....	24
資料2	ワークショップ概要.....	26
	1回目 基本テーマ：「子どもと読書」家庭や地域でできること....	27
	2回目 基本テーマ：子どもに読書の楽しさを伝えるためには.....	30
	ニュースレター.....	33
資料3	主な施策と取組関係部署一覧.....	37
資料4	第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱.....	39
資料5	第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会委員.....	41
資料6	第2次計画策定の経緯.....	42
資料7	基礎調査報告書.....	43
資料8	子どもの読書活動の推進に関する法律.....	93

◎本文中「*」のマークをつけた用語は、「用語解説」に記載しています。

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の経緯

国は、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、読書を通じて子どもの健やかな成長に資することを目的に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を平成13年に制定しました。そして、同法の第9条第2項で、市町村は、子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならないと規定しました。

これに基づき、国及び愛知県の計画に沿って、本市では「長久手市子ども読書活動推進計画」を平成24年度末に策定し、平成25年度から事業を展開してきました。

第2次計画では、第1次計画を継承しつつ、市民アンケート、関係団体ヒアリング、ワークショップなどの結果を踏まえて、第2次計画を策定するものです。

2 計画の目的

子どもが自主的に本に親しみ、読書の好きな子どもが増えることを目的とし、3つの基本目標を掲げ、読書環境の整備、読書のきっかけづくりや読書活動の習慣化を図ります。そして、中央図書館と関係する機関と連携・協力を深めて、本市の子ども読書活動を推進する基本的な方向性を示し、その施策を総合的に推進します。

3 計画の位置づけ

第5次総合計画を背景に、教育大綱の理念に基づき、教育振興基本計画（策定中）の部門別計画に位置づけられます。

4 計画の対象

0歳から18歳までとします。また、保護者等や子どもの読書活動の推進にかかわる団体なども対象とします。

5 計画の期間

平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までのおおむね5年間とします。

6 計画の目標

基本目標Ⅰ：家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣は、家庭生活や学校生活、地域社会などとの日常的な関わりを通して育まれます。そのため、子どもの身近にいる大人が役割を認識し、子どもの読書の機会の充実を図ることが大切です。子どもの発達段階に応じて、関係者がそれぞれの立場から、子どもが自主的に本に親しむことができるように、様々な取組を推進します。

基本目標Ⅱ：子どもの読書環境の整備・充実

子どもが読書の楽しさや喜びを知るためには、発達段階に応じた読書環境が整っていることが重要です。子どもが本を手に取りやすく、いつも身近に本がある読書環境の整備・充実に努めます。

基本目標Ⅲ：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもの読書活動の意義や重要性について、子どもに関わるすべての人々が理解と関心を持つことが大切です。

そのため、中央図書館が主体となり普及事業を積極的に進め、子どもの読書活動を広めていきます。

第2章 第1次計画の主な取組・実績・成果

基本目標1：家庭、地域、学校などにおける子どもの読書活動の推進

【家庭における子どもの読書活動の推進】

主な取組	主な実績															
<p>◆乳幼児期における読書活動を支援するため、赤ちゃんと保護者が絵本を通して触れ合う「ブックスタート*1」を平成25年度から中央図書館で実施。</p> <p>◆保護者が絵本などの読み聞かせを行い、本に親しむ家庭環境をつくること大切であることを啓発するため「おはなし会*2」を実施。</p>	<p>●ボランティアによる読み聞かせや対象者にブックスタートパック(絵本1冊、おすすめ絵本リスト、コットンバッグ)の配付を実施。</p> <p>【ブックスタートパック配付数】</p> <table border="1"> <tr><td>平成26年度</td><td>316人</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>348人</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>386人</td></tr> </table> <p>●乳幼児から小学生までを対象とした「おはなし会」を実施。</p> <p>【おはなし会参加者数】</p> <table border="1"> <tr><td>平成26年度</td><td>62回</td><td>2,943人</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>64回</td><td>3,254人</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>60回</td><td>3,509人</td></tr> </table>	平成26年度	316人	平成27年度	348人	平成28年度	386人	平成26年度	62回	2,943人	平成27年度	64回	3,254人	平成28年度	60回	3,509人
平成26年度	316人															
平成27年度	348人															
平成28年度	386人															
平成26年度	62回	2,943人														
平成27年度	64回	3,254人														
平成28年度	60回	3,509人														

主な成果 「子どもの読書についてのアンケート(小学1・3・6年生及び中学2年生)」集計結果
 質問8：「幼稚園や保育園のころ、家の人に本を読んでもらいましたか？」という質問に対して「よく読んでもらった」と回答した「全体」の割合は、平成23年度の43%から平成29年度の47.5%へと4.5ポイント増えました。中でも、小学6年生は40%から45.4%へと5.4ポイント増加し、中学2年生は43%から48.3%へと5.3ポイント増加となり、全体の増加率を上回りました。おはなし会の参加者数の増加が、家庭での読み聞かせのきっかけとなったと思われます。(「資料編 基礎調査報告書」のp66とp92を参照)

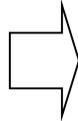
課題

質問5-2「おはなし会に参加したことがない理由」は、「時間等、日程が合わない」が58.9%あるため、開催日程を検討する必要があります。また、おはなし会は、読み聞かせのボランティアが中心的役割を担っているため、ボランティアの育成と活性化に努める必要があります。(「資料編 基礎調査報告書」のp50を参照)

【中央図書館における子どもの読書活動の推進】

主な取組

◆地域社会における図書館の役割などを学び、中央図書館が子どもたちにとって一層身近な存在になるよう、小学生の「図書館見学」や中学生の「職場体験」を実施。



主な実績

- 小学3年生の「図書館見学」の実施。
【図書館見学者数】
平成26年度 604人
平成27年度 626人
平成28年度 644人
- 中学2年生の「職場体験」の実施。
【職場体験者数】
平成26年度 11人
平成27年度 8人
平成28年度 11人

【児童館などにおける子どもの読書活動の推進】

主な取組

◆児童館などの図書室を充実するために、児童館と中央図書館が連携をとり、児童館の古い本の廃棄、対象年齢に適した本の配置換えや、中央図書館から本の団体貸出（児童館）*3をするなど子どもたちに魅力ある図書室作りを実施。



主な実績

- 児童館6館のうち4館の図書室のレイアウト調整、団体貸出（児童館）の本の入替え等を定期的実施。
【団体貸出（児童館）の冊数】
平成26年度 1,007冊
平成27年度 1,120冊
平成28年度 918冊

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3歳児・5歳児の保護者）」集計結果より

質問4：「中央図書館や児童館などの図書室をどの程度利用していますか？」という質問に対して、「あまり利用していない」と回答した全体の割合は、平成23年度の52%から平成29年度の41.5%へと10.5ポイント減少し、全体的に利用が増加しました。特に、3歳児の「月2～3回」の利用は、8%から23.1%へと15.1ポイント増加しました。増えた理由は、児童館図書室へ読み聞かせなどに適した絵本を団体貸出した成果が表れたと考えられます。（「資料編 基礎調査報告書」のp49とp87を参照）

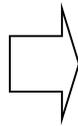
課題

質問6「あなたは1か月のうち中央図書館へ何回行きますか？」は、「行かない」の回答が全体で57%から62.4%へと5.4ポイント増加しました。中央図書館の利用を増やすための取組が必要です。（「資料編 基礎調査報告書」のp63とp91を参照）

【ボランティア団体との協働の推進】

主な取組

- ◆ボランティアグループの育成と技術向上を図るため、ボランティアの養成講座を企画する。
- ◆読み聞かせボランティアへ図書の団体貸出*4をする。



主な実績

- ボランティアの養成講座を年1回実施。
【ボランティア登録者数】

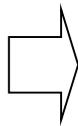
平成26年度	56人
平成27年度	73人
平成28年度	76人
- ボランティア団体へ団体貸出を実施。
【ボランティア団体への団体貸出冊数】

平成26年度	448冊
平成27年度	216冊
平成28年度	422冊

【学校における子どもの読書活動の推進】

主な取組

- ◆学校へ中央図書館の図書の貸出を促進する。
- ◆学校で読み聞かせやブックトーク*5など、児童生徒が読書に興味をもつ機会を提供し、自主的に読書習慣が身に付くよう指導する。



主な実績

- 中央図書館から学校へ、学級文庫*6や調べ学習*7に必要な図書の貸出を実施。
【団体貸出（学校）*8の冊数】

平成26年度	9,447冊
平成27年度	10,360冊
平成28年度	10,741冊
- 児童生徒の読書習慣の促進を図る。
【学校図書館の貸出冊数】

小学校	
平成27年度	142,408冊
平成28年度	146,926冊
中学校	
平成27年度	7,097冊
平成28年度	8,653冊

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（小学1・3・6年生及び中学2年生）」集計結果より

質問4：「どこの本をよく読みますか？」という質問に対して、「自分の家の本」と回答した「全体」の割合が平成23年度では最も多かったです。平成29年度では「学校の図書館」が最も多く、「学校の図書館」は、平成23年度の24%から平成29年度の39.4%へと15.4ポイント増加しました。特に、小学3年生で顕著に伸び、35%から55.2%へと20.2ポイント増加しました。学校連携司書が読み聞かせやブックトーク、テーマ展示などで子どもたちへ本を紹介することが、学校での読書のきっかけづくりとなっていると考えられます。（「資料編 基礎調査報告書」のp61とp91を参照）

課題

質問1-1「1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？」では「ほとんど読まない」と回答した中学生の割合は、平成23年度の38%から平成29年度の43.1%へと5.1ポイント増えました。その一方で、「10冊以上読む」が3%から6.2%へと3.2ポイント増えています。中学生の本を読む子どもと読まない子どもの差が開いていますので、その差を縮め全体数を高めるために、中学生への効果的な働きかけが重要です。（「資料編 基礎調査報告書」p55とp89を参照）

基本目標2：中央図書館などの子どもの読書環境の整備・充実

【中央図書館のサービスの充実】

主な取組

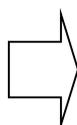
◆児童書架スペースの整備とともに、子どもたちの読書環境づくりを図り、中央図書館利用の増加に努める。

主な実績

●児童書架スペースに対象年齢別に本を配置し、読書環境を整えた。

【18歳までの貸出冊数】

平成26年度	137,705冊
平成27年度	145,187冊
平成28年度	149,211冊



主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3歳児・5歳児の保護者）」集計結果より

質問2：「お子さんは本が好きですか？」という質問に対して、「好き」と回答したのは、「全体」では、平成23年度の52%から平成29年度の67.3%へと15.3ポイント増えました。特に3歳児では、46%から64.1%へと18.1ポイント増えました。家庭で読み聞かせをする機会が増えたための成果と考えられます。（「資料編 基礎調査報告書」のp47とp87を参照）

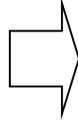
課題

質問6「お子さんの本をどのようにして手に入れていますか？」という質問に対して、第1位が「買う」、第2位が「家にある本」、第3位が「保育園・幼稚園の本」、第4位が「中央図書館」です。保護者を始めとした大人が、子どもの読書環境に大きく関わっていると考えられるため、大人へ読書の楽しみ、魅力を伝え、大人が子どもと本をつなぐ架け橋となるように努めることが必要です。この点に留意した中央図書館のサービス充実が重要です。（「資料編 基礎調査報告書」のp51を参照）

【学校図書館と中央図書館の連携・協働体制の強化・充実】

主な取組

- ◆学校連携事業をより一層強化し充実させるために、学校連携司書の増員を図る。
- ◆学校連携司書*9が学校で推薦した本の情報を中央図書館の利用者にも紹介し、情報を共有する。



主な実績

- 小学校6校、中学校3校の計9校を、学校連携司書が分担して巡回した。
【学校連携司書数】

平成26年度	3人（1人増）
平成27年度	4人（1人増）
平成28年度	5人（1人増）
- 中央図書館の児童書架に学校連携司書のおすすめ本のテーマ展示*10を実施。
【テーマ展示の回数】

平成26年度	6回
平成27年度	7回
平成28年度	7回

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（小学1・3・6年生及び中学2年生）」集計結果より
質問5：「あなたは、1か月のうち学校の図書館へ何回行きますか？」という質問に対して「行かない」の回答は、「全体」では、平成23年度の31%から平成29年度の23.8%へと7.2ポイント減少しました。また、「5回以上」の回答は、20%から28.8%へと8.8ポイント増加しました。特に、小学3年生の「5回以上」は、20%から37.7%へと17.7ポイントの著しい増加となりました。学校連携司書が学校にいて、学校図書館の利用が全体的に増えた傾向があります。（「資料編 基礎調査報告書」のp62とp91を参照）

課題

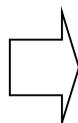
学校連携司書は、平成29年度現在、5人いますが、9校（小学校6校、中学校3校）全てへ毎日派遣できていません。学校連携司書の「1校につき1人の配置」を目指し、充実を図ることが必要です。

基本目標3：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発

【「子ども読書の日*11」や「読書週間*12」などにおける啓発事業の実施】

主な取組

◆子どもの読書活動の大切さを伝えるきっかけとして、児童書講演会や「子ども読書の日」に合わせた事業を保護者や子ども向けに実施。



主な実績

- 児童書講演会等を実施。
【講演会等の参加者数等】

平成26年度	52人
平成27年度	76人
平成28年度	56人
- 「子ども読書の日」いちにちおはなし会を実施。
【おはなし会参加者数】

平成26年度	108人
平成27年度	159人
平成28年度	157人

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3歳児・5歳児の保護者）」集計結果より

質問5-1：「中央図書館や児童館などでおはなし会が開催されていますが、参加されたことはありますか？」という質問に対して、「参加したことがある」の回答は、平成23年度の34%から平成29年度の42.1%へと8.1ポイント増えました。（「資料編 基礎調査報告書」のp50とp87を参照）

課題

全体としては、「参加したことがない」と回答した方がやや多い状況となっています。図書館を利用していない子どもや保護者に対して図書館の情報を発信し、図書館の魅力を広める必要があります。

重点施策

目的

基本目標

I 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

- 1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進
- 2 中央図書館における子どもの読書活動の推進
(家庭・地域)
- 3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進
(地域)
- 4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進
(地域)
- 5 学校における子どもの読書活動の推進

II 子どもの読書環境の整備・充実

(本の見やすさ・対象別に強化)

- 1 中央図書館のサービスの充実
- 2 児童館の読書環境の整備・充実
- 3 保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実
- 4 学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実

III 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

(広く周知し、興味を集める)

- 1 普及活動の充実
- 2 各種情報の収集・提供
- 3 優れた取組の紹介

読書の好きな子どもが増える

取 組

ワークショップ・ヒアリング関係事項

<ul style="list-style-type: none"> (1)乳幼児期からの読書活動の支援(ブックスタート事業) (2)家庭読書の支援(年齢に応じた図書情報提供) (3)地域の読書活動の支援(地域ボランティア団体への貸出) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1回目「家庭」 ・「基礎調査報告書」ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> (1)良質な図書の収集(専門的視点で選書し、貸出回数をはす) (2)声かけレファレンス*13(本をさがしている子どもに声かけ) (3)中央図書館がより身近な存在となる事業の企画(テーマ展示の開催) (4)図書ボランティアとの協働(ボランティアの募集と育成) (5)児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施(図書館講座の開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目「図書館」、「総合」 ・「基礎調査報告書」ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> (1)中央図書館からの図書貸出(全児童館への提供) (2)ボランティアによる読み聞かせ(児童館での読み聞かせ活動の開始) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1回目「児童館」 ・「基礎調査報告書」ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> (1)保護者などに読書活動の大切さを周知(年齢別のブックリストの配置) (2)読書と遊びを結びつけた取組(遊びの本の紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1回目「保育園・幼稚園」
<ul style="list-style-type: none"> (1)学校連携司書の派遣(学校連携司書の増員) (2)学校連携司書による調べ学習の補助(調べ学習用図書の選定) (3)学校連携司書による読書案内(読み聞かせや読書相談) (4)学校連携司書による企画展示(テーマ展示の開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目「学校」 ・「基礎調査報告書」ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> (1)子どもの発達段階に応じた読書環境づくり(児童コーナー点検・調整) (2)中高生向けの図書の充実、読書環境づくり(中高生に向けた書棚の特設) (3)ホームページを通じた情報発信(年齢別の推薦本紹介ページの開設) (4)障がいのある子どもへのサービス(点字絵本やさわる絵本などの収集) (5)中央図書館からやや離れた地区に住む子どもたちへの読書環境づくり(子どもの身近な施設への団体貸出) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目「図書館」 ・「基礎調査報告書」ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> (1)児童館利用者への本の紹介(年齢別のブックリストの配置) (2)児童館図書室の環境整備(本の配置などの点検・調整) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1回目「児童館」 ・「基礎調査報告書」ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> (1)園内の図書コーナーの整備(園職員へのアドバイス) (2)団体貸出登録(市内全園の団体登録) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1回目「保育園・幼稚園」
<ul style="list-style-type: none"> (1)学校図書館の環境整備(本の配置、レイアウト調整、雰囲気づくり) (2)中央図書館資料の学校への提供(学級文庫用に団体貸出(学校)) (3)学校連携司書による中央図書館の行事企画(おはなし会などの開催) (4)学校図書館と中央図書館の情報共有(学校連携司書の推薦本紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目「学校」 ・「基礎調査報告書」ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> (1)読書手帳*14の普及(カウンターなどで配布) (2)「子ども読書の日」などの普及(いちにちおはなし会の開催など) (3)保護者への周知(ホームページ等での事例紹介) (4)各施設で読み聞かせイベントなどの実施(読み聞かせイベントの開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目「図書館」、「総合」
<ul style="list-style-type: none"> 図書情報などの収集・提供(子ども読書にかかる記事などの掲示) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目「総合」
<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアなどの活動を紹介(ホームページでの活動紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ2回目「総合」

第4章 読書の好きな子どもが増えるための施策

基本目標Ⅰ：家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進

(1) 乳幼児期からの読書活動の支援

乳幼児期に初めて本と出会うきっかけをつくるため、赤ちゃんと保護者が絵本を通して触れ合う「ブックスタート」などの事業を行います。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
ブックスタートパック配付人数 (年間)	386人	500人

(2) 家庭読書の支援

家庭での読書の機会を増やすため、年齢に応じた本の情報を提供し、本に親しみやすくします。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
年齢別ブックリスト作成	1種類	5種類

(3) 地域の読書活動の支援

ボランティアが地域での活動の際に必要な本をボランティア団体へ貸出し、地域の読書活動を支援します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
ボランティア団体への団体貸出 (年間)	435冊	520冊

2 中央図書館における子どもの読書活動の推進

(1) 良質な図書の収集

専門的視点で司書が選定した良質な図書の収集を継続します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中央図書館の小学生までの貸出冊数（年間）	130,629冊	150,000冊

(2) 声かけレファレンス

本をさがしている子ども（保護者含む。）に司書から主体的に声をかけ、児童書のレファレンスサービスを強化します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
学校連携司書が中央図書館で実施するレファレンス件数（年間）	0件（統計無）	380件

(3) 中央図書館がより身近な存在となる事業の企画

子どもたちの関心やニーズに合わせた本のテーマ展示や飾り付けなどの雰囲気作りをすることで、本への興味を促し、中央図書館がより身近な存在となるように努めます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
テーマ展示回数（年間）	13回	18回

(4) 図書ボランティアとの協働

読み聞かせや本の修理などの図書ボランティアを募集・育成・増員し、連携します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
ボランティア登録者数（年間）	76人	100人

(5) 児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施

おはなし会の開催日数を増やし、図書館講座を始めとしたイベント等を企画します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
イベント等の実施回数（年間）	71回	83回

3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進

(1) 中央図書館からの図書貸出

中央図書館から団体貸出（児童館）をすることで、良質な本を提供し、読書のきっかけづくりをします。団体貸出未実施の長久手西児童館、長久手市青少年児童センターへの提供を開始します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
団体貸出（児童館）（全6館）	4館	6館

(2) ボランティアによる読み聞かせ

読み聞かせに適した絵本を提供し、ボランティアによる児童館での読み聞かせをする体制を整えます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
児童館での読み聞かせをした館 （全6館）	0館	6館

4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進

(1) 保護者などに読書活動の大切さを周知

家庭における乳幼児期からの読み聞かせの意義を保護者を始めとする大人が理解し、親子で絵本に親しむため、園児対象の年齢別のブックリストを配置します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
園児対象のブックリスト配置 （全19園）	0園	19園

(2) 読書と遊びを結びつけた取組

園での読み聞かせに、カルタなどのことば遊びの要素を入れた取組を充実させ、ふれ合いの中で楽しい体験ができるように支援します。

また、中央図書館からの団体貸出によって、読み聞かせに適した絵本を増やします。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
園職員へ選書のためのレファレンス実施 (全19園)	0園	7園

5 学校における子どもの読書活動の推進

(1) 学校連携司書の派遣

中央図書館から小中学校へ学校連携司書を派遣し、司書教諭*15と協働して学校図書館を活性化させ、利用を促します。学校連携司書の「1校につき1人の配置」を目指します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
学校連携司書の配置人数	5人	9人

(2) 学校連携司書による調べ学習の補助

学校連携司書が教職員と連携し、調べ学習のための本を中央図書館の蔵書から選定し提供することで、子どもの学習と教職員の授業を支援します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
年間の調べ学習用等の貸出冊数 (小学校)	2,671冊	3,000冊
年間の調べ学習用等の貸出冊数 (中学校)	146冊	200冊

(3) 学校連携司書による読書案内

学校連携司書が、読み聞かせやブックトークなどで、読書の楽しさを伝えます。また、子どもの読書相談に応じ、興味や関心のある本を紹介します。さらに、学校のボランティアと協力し、朝読書*16や読み聞かせを実施し、学校図書館の貸出冊数の増加を図ります。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
年間の学校図書館の貸出冊数 (小学校)	146,926冊	160,000冊
年間の学校図書館の貸出冊数 (中学校)	8,653冊	9,300冊

(4) 学校連携司書による企画展示

学校連携司書が、学校図書館でテーマ展示などの企画展示をすることで、読書への興味を高めるきっかけづくりをします。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
1校あたりの年間のテーマ展示 回数 (小学校)	4回	6回
1校あたりの年間のテーマ展示 回数 (中学校)	0回	3回

基本目標Ⅱ：子どもの読書環境の整備・充実

1 中央図書館のサービスの充実

(1) 子どもの発達段階に応じた読書環境づくり

対象年齢に応じた本の整備を図り、子どもが自ら本を選ぶ楽しさを実感できる棚や、くつろいだ雰囲気的空間づくりをするため、児童書コーナー全体を定期的に点検、調整します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中央図書館の児童書コーナーの点検・調整（年間）	年 1 回	半年に 1 回

(2) 中高生向けの図書の充実、読書環境づくり

中高生向けの本を収集し、この世代用に特化した書棚をつくります。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中高生向け専用棚の図書貸出冊数（年間）	3 0 1 冊	7, 0 0 0 冊

(3) ホームページを通じた情報発信

ホームページで、本の紹介を始め、各種イベントの開催などの情報提供に努めます。また、子ども向けページの充実を図ります。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
年齢別の推薦本紹介ページの開設	1 種	5 種

(4) 障がいのある子どもへのサービス

点字絵本*17 やさわる絵本*18などを収集し、障がいを持つ子どもや保護者へ提供します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
障がい児向け図書の提供	0 冊	5 0 冊

(5) 中央図書館からやや離れた地区に住む子どもたちへの読書環境づくり

中央図書館からやや離れた地区に住む子どもの読書環境を向上させるために、団体貸出の拠点数を増やします。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中央図書館から団体貸出する拠点の数	9 か所	20 か所

2 児童館の読書環境の整備・充実

(1) 児童館利用者への本の紹介

児童館に来館する子どもから保護者までを対象に、おすすめ本のブックリストなどを作成し、情報提供します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
年齢別ブックリストの配置	0 種	4 種

(2) 児童館図書室の環境整備

児童館図書室の本の配置やレイアウトの調整、新規に購入する本や除籍本の選定に中央図書館が協力をします。また、司書が選定した本を中央図書館から団体貸出（児童館）をすることで、図書室の魅力を高めま

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
本の配置などの点検・調整(年間)	4 回	6 回

3 保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実

(1) 園内の図書コーナーの整備

園の図書コーナーを充実するため、年齢に応じたおすすめ本のブックリストの提供や読み聞かせに適した絵本や地域の民話などを中央図書館から紹介します。司書が図書コーナーづくりや絵本の選定に関するアドバイスをすることで、園の職員を支援します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
選書の意見交換と支援の年間実施園数（全7園）	0園	7園

(2) 団体貸出登録

中央図書館の団体貸出カードを発行し、全ての園で活用するように周知し、団体貸出を促します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
市内全ての園の団体登録数（全19園）	5園	19園

4 学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実

(1) 学校図書館の環境整備

学校図書館の本の配置やレイアウトの調整、本の選定に中央図書館が協力し、環境整備を図ることで、学校図書館が子どもにとって魅力的な居場所となるよう雰囲気づくりを支援、アドバイスします。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
学校図書館へ週4回訪問する学校数(小学校6校)	4校	6校
学校図書館へ週4回訪問する学校数(中学校3校)	0校	3校

(2) 中央図書館資料の学校への提供

中央図書館から学級文庫用として団体貸出（学校）をする冊数を増やすことで、良質な本を子どもの身近な場所へ提供し、子どもの読書環境を充実させます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
団体貸出(学校)の冊数	6, 9 0 0 冊	7, 5 0 0 冊

(3) 学校連携司書による中央図書館の行事企画

学校連携司書が中央図書館で読み聞かせやブックトークなどのイベントを継続して開催することで、保護者を含めた幅広い年齢層へ読書の楽しさを伝えます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中央図書館でのイベント参加者数 (年間)	1 4 4 人	1 6 0 人

(4) 学校図書館と中央図書館の情報共有

学校連携司書が学校現場での実践を活かし、中央図書館利用者へ向けおすすめする本をホームページで紹介します。学校と中央図書館の司書が互いに本の情報を共有し、選書などに役立てます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
学校連携司書が薦める本をホームページで紹介する冊数 (年間)	0 冊	2 0 冊

基本目標Ⅲ：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

1 普及活動の充実

(1) 読書手帳の普及

読書履歴を残すことで、楽しみながら読書意欲を高めるため、読書手帳の普及に努めます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
読書手帳の窓口配布数（年間）	100枚	300枚
読書手帳の完了スタンプ数（年間）	46個	70個

(2) 「子ども読書の日」などの普及

「子ども読書の日」や「こどもの読書週間*19」などに合わせて読書に関するイベントや企画展示を開催し、参加者増加を目指します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
「子ども読書の日」いちにちおはなし会参加者数（年間）	157人	200人

(3) 保護者への周知

中央図書館を始めとした各施設での読書活動の取組事例を保護者へ広く周知し、子どもの読書の機会を増やします。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中央図書館のホームページで各施設で行われている読書活動を紹介	3件	10件

(4) 各施設で読み聞かせイベントなどの実施

中央図書館内外での読み聞かせイベントなどを通し、読書の大切さを広めるよう広報に努めます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
おはなし会などの読み聞かせイベント参加者数(年間)	3, 6 6 6 人	4, 4 0 0 人

2 各種情報の収集・提供

図書情報などの収集・提供

子どもの読書活動に関連するニュースを提供することで、子どもの読書活動を幅広く推進します。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
閲覧室等へ随時、子ども読書に関する情報を掲示する件数(年間)	0 件	6 件

3 優れた取組の紹介

図書ボランティアなどの活動を紹介

図書ボランティアなどの活動を紹介、奨励することで図書ボランティア活動の活性化、生きがいつくりにつなげます。

指 標	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中央図書館のホームページで図書ボランティアの活動状況を掲載	0 種	4 種

第5章 計画の推進

1 計画の周知

計画の推進にあたり、子育て中の家庭、学校、ボランティア団体をはじめ多くの関係者の理解と協力が必要なことから、市広報やホームページへの掲載、各種施設等へのアウトリーチ事業を実施して広く周知と理解に努めます。

2 関係機関との連携・協働

子ども読書活動の推進には、関係機関や団体などがその重要性を認識し、相互に連携・協働しながら取組むことが重要です。中央図書館、学校図書館、図書ボランティアなど「子ども」と「読書」に携わる関係者それぞれが各自の役割を果たしていくため、相互の連携を図ります。

3 計画の実施状況の点検・評価

本計画の適切な推進を図るため、学識経験者、社会教育関係者などで組織する図書館運営協議会において、計画の進行管理、評価を行い、結果を公表します。

第2次長久手市子ども読書活動推進計画

発 行 平成30(2018)年5月
編集・発行 長久手市教育委員会 教育部 中央図書館
〒480-1168 愛知県長久手市坊の後114
TEL 0561-63-8006
FAX 0561-63-8045
URL <http://library.city.nagakute.lg.jp>
